

NJ 素流協 News

令和 8 年 6 月 10 日
第 257 号

令和 8 年 6 月 10 日発行・発行所 ノースジャパン素材流通協同組合 〒020-0024 盛岡市菜園 1 丁目 3-6 (農林会館 5 階)
TEL 019(652)7227 / FAX 019(654)8533 / <https://www.soryukyo.or.jp>

ノースジャパン素材流通協同組合 第 23 回通常総会・報告会を開催しました

NJ素流協は5月26日、第23回通常総会・報告会を盛岡市のホテルメトロポリタン盛岡ニューウイングにおいて開催し、来賓、組合員等約120名が出席しました。今年、組合員・賛助会員が出席する「通常総会」と、来賓も交えて感謝状贈呈や総会の結果報告を行う「報告会」の2部構成で実施しました。

【第1部 第23回通常総会】

1 開会・理事長挨拶

横澤孝一副理事長の開会の辞に続いて、鈴木信哉理事長が次のように挨拶しました。

「本日は、岩手県、青森県をはじめ、総会が同じ日に開催される団体が多く、日程が重なってしまっただことは残念に思います。そのような中たいへんお忙しい中お集まりいただきありがとうございます。さて、本日は総会ということで、昨年度の決算並びに令和8年度の

計画等についてご審議いただきま

す。共同販売事業は55万5千㎡の取扱を目標としていましたが、結果として55万9千㎡に達し、委託販売も合わせると59万7千㎡ほどで、歴代最高の取扱数量となりました。そのため、今回も利用分量配当金として、出荷していただいた皆様にお返しすることができそうです。ひとえに組合員と販売先の皆様方のご協力の賜物だと思います。当組合は元々、第1次プー

チン大統領時代の、ロシア丸太関税問題で、合板工場が急遽国産材に転換せざるを得なくなったところから、「皆でまとまって供給しよう」と取り組んできました。今も様々な国際問題がありますが、日本の林業・木材産業は国際情勢によって需給量や価格が乱高下します。これを何とか止めたいです。止めるためには、やはり、国産材時代を迎えることが必要だと思っ

ています。いまだに外材に頼っているものを国産材にどう切り替えていくか、その工場に対して皆でまとまって供給していきけるかどうか、ここに邁進していきたいと思います。」



鈴木理事長挨拶

2 議事

議事に先立ち、事務局から総会の成立が報告されました(組合員254名中、本人出席34名、委任状による代理出席209名)。廣瀬誠氏が議長に選出され、議案の審議・承認が以下の通り行われました。

▽議案第1号「令和7年度事業報告書の件」

●令和7年度販売事業

令和7年度共同販売事業における素材取扱数量は表1のとおり。

表1 端数処理により計は一致しない 単位：m³

区分	合板・LVL用素材	製材・集成材用素材、土用素材他	バイオマス発電用素材(t)	計
材積	244,878	202,936	111,725	559,538
計画比	98%	110%	93%	101%
前年比	98%	126%	101%	107%

共同販売による取扱数量は、バイオマス素材を含め55万5千m³の計画に対し、55万9,538m³となった。 ※ t = m³

東北森林管理局における委託販売での販売3万7734m³を加えた、NJ素流協の令和7年度の取扱総数量は、59万7272m³(前年比105%)となり、歴代最多の取扱数量となった。

また、用材用・バイオマス用とともに、改正クリーンウッド法やラ

イフサイクルGHGに対応した内容への納品書の改定や、製材工場・合板工場・バイオマス工場にご協力いただき、大船渡市山林火災被害木の販売も行った。

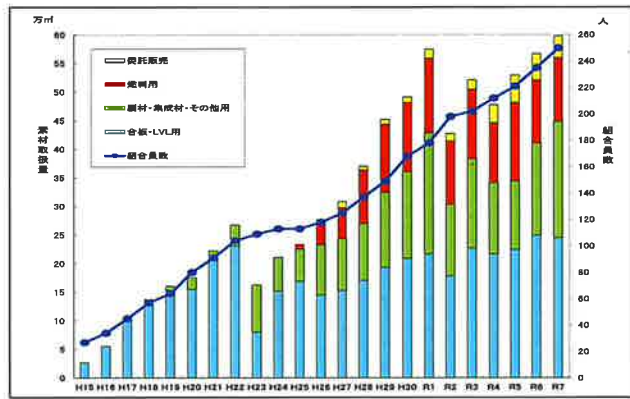


図 素材取扱数量と組合員数の推移

●森林再生に関する事業

① 再造林基金事業の推進

「岩手県森林再生機構」の構成団体として、共同販売事業等に係る協力金については、原木出荷者(素材生産等の組合員)及び原木購入者(販売先)から徴収するとともに、当組合(原木流通業者)

の協力金を積み立てた(令和7年度協力金計1140万3062円)。

また、「青い森づくり推進機構」に木材流通業者として協力金を拠出(令和7年度協力金計57万4902円)。

② 低コスト再造林の促進

組合員による再造林を促進するため、組合員が行う低コスト再造林経費の一部を助成する「再造林促進奨励事業」を実施した。令和7年度は、組合員4名が行った再造林面積13・79haのうち4・00ha(1組合員1・00haが上限)について助成金25万2千円を交付した。

③ 海岸防災林再生活動の実施

仙台森林管理署との協定のもと活動している、宮城県名取市の海岸防災林「ノースジャパン100年復興の森」にて、令和7年度は、当組合で植栽した0・08haに隣接区画を加えた計0・3haについて改めて協定締結し、定期巡視及び清掃に加え、9月に組合員及び役職員のべ43名が参加して、裾枝

落し、つる切り、階段補修等を行った。

●技術指導と調査研究、情報提供に関する事業

① 研修会等の実施

・ 林業経営講座を2回、林業講演会を2回、島根県・鳥取県で現地視察研修を行った。また、当組合で初めて海外視察研修をニュージーランドで実施した。

・ 組合員の役職員、従業員が自己の技術や知識を向上させる目的で参加した研修会等の経費の一部を助成する「自己研鑽研修助成金」について、令和7年度は7件の研修に対して助成し、助成金17万6千円を交付した。

② 技術指導

・ 合法木材及びバイオマス材の証明に係る事業者の新規認定申請者を対象に、林野庁ガイドラインの適切な運用、クリーンウッド法の概要等に関する研修会を実施し、9事業者を認定した。

・ 木質バイオマス発電におけるラ

当組合が認定している認定事業者を対象に研修会を実施し、110事業者を認定した。

・岩手県産材認証協議会登録者が取り扱う材について、証明を行うとともに、前年度の証明実績を取りまとめ、岩手県産材認証推進協議会へ報告した。(令和6年度証明実績1万6089^m)

・「意欲と能力のある林業経営体」について、組合員の登録を奨励するとともに登録申請に関する情報提供を行った。

・令和7年度のいわて林業アカデミー研修生の就業体験研修では、9組合員が就業体験研修を受け入れた。

・国の新規助成事業等を組合員へ紹介し、事業の活用を指導した。

・カラマツ種子不足の解消に寄与するため、組合員の協力のもと、着果木を伐倒し、球果採取を行った。

・GPS・GIS等の活用に関する情報提供及び訪問指導を実施した。

③調査研究(課題解決の取り組み)

・「伐採搬出・再造林ガイドライン全国連絡会議」の一員として、ガイドライン活動に関する情報の発信や共有を行った。

・当組合が事務委託を受けている東北地区原木トラック運送協議会と連携し、業務改善や後継者育成等に向けた活動を実施した。

・組合員の女性経営者を支援する取り組みを進めるため、交流ミーティングを開催して意見交換を行った。

・「TEAM森林再生大船渡」の一員として、大船渡山火事被災木を使用した製品のPR活動等を行った。

④NJ素流協青年部会関連

・第5回げんき森林(モリ)モリフェスティバルを開催し、岩手県内外から約650名の来場があった。

・大阪府で視察研修を行った。

・岩手県民の森春まつりの後援と体験ブースの出演、海岸防災林「ノースジャパン100年復興の

森」再生活動への協力、岩手県民の森ボランティア活動への参加、盛岡地区安全伐倒競技会への運営協力。

・岩手県林業団体青年部連絡協議会の活動として、盛岡市動物公園ZOOMOと共同で、園内の森林整備等を行った。



会場の様子

●受託・協定等に関する事業

・災害時における応急対策業務に関する協定(岩手県知事と締結)について、令和7年度は、協力の意思表示があった岩手県内87組合員の名簿を県に提出した。

▽議案第2号「令和8年度事業計

続き取り組み。

「画書の件」

・令和8年度の共同販売計画量は表2のとおり。

表2 令和8年度共同販売計画量

区分	計画量
合板用素材	250,000 ^m
製材・集成材用素材・その他	209,000 ^m
バイオマス発電用素材	120,000 ^m
計	579,000 ^m

t = m³で計算

・東北森林管理局等委託販売業務において素材3万1千^mの取り扱いは見込んでいる。

・再造林基金事業等、森林再生に関する事業に引き続き取り組む。

・組合員の林業技術の向上と経営改善を図るため、引き続き各種研修を行う。

・組合員の経営改善と社会的貢献に寄与する取組みを行う。

・女性経営者の活躍支援の取り組み等課題解決に向けた調査研究等、

青年部会の活動、各種情報の提供、受託・協定等に関する事業に引き

表3 新役員名簿

(五十音順・敬称省略)

役職名	氏名	所属団体
理事長	鈴木 信 哉	ノースジャパン素材流通協同組合
副理事長	横 澤 孝 一	横澤林業株式会社
理 事	大粒 来 仁 孝	有限会社丸大県北農林
理 事	小野 寺 徳 治	株式会社小野寺林業
理 事	小 林 拓 夫	株式会社昭林
理 事	島 崎 祐 男	株式会社石川組
理 事	杉 本 嘉 一	杉本林業株式会社
理 事	角 掛 勇 吉	岩手県国有林材生産協同組合連合会
理 事	坪 晃	青森県国有林材生産協同組合
理 事	野 邑 計	有限会社道又林業
理 事	松 田 光 治	有限会社三栄興業
監 事	高 橋 峻	鬼首振興株式会社
監 事	谷 地 譲	有限会社谷地林業

▽議案第3号「令和8年度手数料率決定の件」
共同販売の手数料については、販売代金の3・25%以内(消費税別)とする。
※今年度の手数料率は2・5%
その他、議案第4号「令和8年度経費賦課金徴収の件」議案第5

号「令和8年度役員報酬決定の件」、議案第6号「令和8年度内借入金残高の最高限度額決定の件」、議案第7号「令和8年度取引金融機関決定の件」についても決定されました。
▽議案第8号「役員改選の件」
役員13名は左記の表3のとおり。

【第2部 第23回通常総会報告会】

通常総会終了後、来賓を迎え、感謝状贈呈や祝辞を頂戴いただき、総会の審議結果報告が行われました。

1 感謝状贈呈

令和7年度の当組合の取組みにおいて多大な協力と貢献をした組合員及び永年勤続者に対して、感謝状と記念品を贈呈し、感謝の意を表しました。

▽出荷量伸び率 上位者

当組合の共同販売事業に特に貢献して頂いた、一定量以上の出荷量で、前年度比の増加率が大きい組合員に感謝の意を表します。

株式会社高橋林業

代表取締役 高橋 広志様

湯田木材株式会社

代表取締役 湯田 昌昭様

岩手県国有林材生産協同組合連合会

会長 伊藤 金人様

▽林業用種子確保の取組み協力者

当組合が実施する林業用カラマツ種子確保の取組みにご協力を頂いた組合員に感謝の意を表します。

中村木材工業

代表 中村 満様

ノースジャパン素材流通協同組合第23回通常総会



ノースジャパン素材流通協同組合第23回通常総会



共同販売事業に貢献して頂きありがとうございました！



研修受け入れご協力ありがとうございました！

▽研修等受け入れ協力者
 いわて林業アカデミー研修において、当組合が担当した研修での受け入れにご協力を頂いた組合員に感謝の意を表します。

株式会社宝栄運輸

代表取締役 室野 努史様

上山林業有限公司

代表取締役 伏春 弘行様

2 来賓祝辞・祝電
 来賓を代表して、東北森林管理局 局長 箕輪富男様、岩手県農林水産部 部長 照井富也様(代理 森

永年勤続10年

佐藤 智絵

永年勤続20年

小野寺 義晃

【永年勤続者表彰】



海外視察研修でのご協力ありがとうございました！

▽研修等協力者
 当組合が実施した海外視察研修でのご協力を頂いた方に感謝の意を表します。

一般社団法人日本木質バイオマスエネルギー協会

会長 酒井 秀夫様



前方及び両サイドの席に来賓の皆様を迎え報告会を実施

林整備課総括課長(八重樫倫子様)、岩手県森林・林業会議 理事長 中崎和久様(代理 専務理事 橋本卓博様)、日本合板工業組合連合会 会長 井上篤博様(代理 専務理事 上練三様)から御祝辞を頂きました。また、商工中金 代表取締役 関根正裕様から御祝電を頂きました。その他、森林管理署、販売先様等多くのご来賓の方に出席いただきました。

その後の懇親会は、協和木材株式会社 代表取締役 佐川広興社長による乾杯の挨拶でスタート。組合員・来賓の皆様との楽しいひと時となりました。

トピックス

第52回全素協総会に出席しました

5月21日、全国素材生産業協同組合連合会の第52回通常総会が東京都において開催され、当組合から鈴木理事長が出席しました。

令和7年度事業活動報告と収支報告、令和8年度事業計画と収支予算がそれぞれ承認されました。

役員改選では、会長が日高勝三郎氏から佐藤総栄氏(秋田県素材生産流通協同組合理事長、有限会社秋田グリーンサービス代表取締役)に交代しました。

林野庁ホームページでNJ素流協の活動が紹介されました

林野庁は、持続可能性に配慮した木材の供給・利用を広げるため、関係者間の共通理解と連携を支えるガイドランスを作成しました。ガイドランスの中では、供給から需

要までの各主体が状況に応じて適切な取組を選べるような手法が紹介されています。この中の一例として、N J素流協の納入開始届や抜き打ち現地確認等の取組が掲載されています。

林野庁ホームページ
「持続可能性に配慮した木材供給・利用に係るガイダンス」
https://www.rinya.maff.go.jp/j/mokusan/sustainable_wooduse.html



燃料油や石油製品等の相談窓口があります

農林水産省は、燃料油や石油製品等の供給について、流通や取引の状況に影響が及ぶ場合に備えて、事業者の皆様からの情報を受け付ける相談窓口を設置しています。
中東情勢の影響により、燃料油や石油製品等の確保

相談窓口：林野庁林政課
rinya_rinsei@maff.go.jp

に不安がある場合は、相談窓口へ早めにご相談ください。

**今年も始まる!!
令和8年度
全国安全週間実施**

6月1日～30日を準備期間、7月1日～7日までを安全週間として、「令和8年度全国安全週間」が始まります。

【準備期間中及び全国安全週間に実施する事項】

- 経営トップによる安全への所信表明を通じた意思統一等
 - 職場の総点検の実施
 - 安全旗の掲揚、標語の掲示、講演会の開催等
 - 労働者の家族への職場の安全に関する文書の送付等
 - 緊急時の措置に係る訓練
 - 準備期間及び全国安全週間にふさわしい行事の実施
- 皆様には引き続き、労働災害防止活動に取り組んでいただきますようお願いいたします。

お知らせ

免税軽油使用状況調査にご協力お願いします

組合員の皆様に、令和7年度における免税軽油使用状況に関する調査を実施しています。

本調査は林野庁の依頼により実施しており、各業種における特例の活用率や免税軽油使用量等の実績を取りまとめ、令和9年度税制改正要望の基礎資料とするものです。

まだご回答いただいていない方はご協力をお願いいたします。
なお、既にメールまたは郵送にて回答様式をお送りしておりますが、お手元に無い場合は経営企画課までご連絡ください。

6月時点の樹種・材種の不足状況について

- 集成材用
スギ4 m、3・65 m材…当面、制限なく納入可能
- 合板用

カラマツ材：当面、制限なく納入可能（虫害材は注意が必要）
アカマツ材：当面、制限なく納入可能（青変菌は注意が必要）

● 製材用
スギ3 m材、3・65 m材、4 m材
…当面制限なく納入可能（虫害には注意）

※6月から松くい虫被害地域における伐採が制限されるため、アカマツ原木の不足が予想されます。
※気温が上昇しているため、虫害・青変菌の被害にご注意ください。できるだけ、伐採後は速やかにフレッシュな状態で納入いただけるようご協力ください。

**カラマツ種子
情報提供をお願いします**

N J素流協では、カラマツ苗木生産に寄与するために、球果採取の取り組みを行っています。

鮮やかな緑色で、成長途上の大ききの球果を見つけたらN J素流協まで情報提供をお願いいたします。

ちよつと気になる木の話

国産材時代の功労者

プーチン大統領？

— 更に前進する
功労者はだれに？ —

日本の高度経済成長期の大手商社の2大輸入対象は石油と木材だった。石油は今でも主要輸入品であるが、木材は国内資源の充実とともに輸入を減らし、国産材にシフトしている。

木材自給率最低の時代から脱出する大きなキッカケとなったのは、合板工場のロシア丸太から国産材丸太への転換である。転換の功労者はプーチン大統領である。第一次プーチン政権で、ロシア丸太輸出に関税をかけることと発表された。100ユーロ/m²である。この発表を受けて、国内の合板工場は一斉に国産材転換に進んだ。

その結果、大量のスキ、ヒノキ、カラマツ、アカマツの針葉樹B材が合板工場に供給されることとなった。当組合の発足もここが原点である。当時は、合わせてロシア丸太製材工場も、工場を閉鎖して製品輸入に切り替えるか、丸太をロシア産から国産材に切り替えるかの対応を迫られた。中でも、富山、新潟、酒田、いわき等が対応を迫られた。国産材転換工場は全て上手くいったわけではなく、その後、採算だけではない理由もあり、廃業もあった。それでも、ロシ

ア産アカマツ製品の需要は顕在であった。

しかし、この時針葉樹丸太の輸出関税はプーチン大統領の北歐訪問時に中止となり、広葉樹だけに関税が課された。その後、広葉樹は北米に依存したが、現在の円安、北米需要の増大、ウクライナ問題等で、今起きている広葉樹ウッドショック問題のベース変換点だったといえる。この時、広葉樹業界にも影響がないかと話したが、在庫もあるし、北米から入るからと緊張感は全く無かったと思い出される。

そして、再びプーチン大統領復帰で、ウクライナ問題が生じた。結果、単板輸入の停止措置となった。強度が強いダフリカカラマツの単板は、当然強度が求められる合板のフェイス・バックに利用されてきた。求められる性能を確保するため、国産カラマツ利用にシフトするしかなかったといえる。

結果、単板輸入禁止前は1万5千円/m²、1万9千円/m²だったカラマツ丸太価格は、2万4千円/m²、2万5千円/m²にシフトしたのである。ある意味、再びプーチン大統領が功労者かもしれない。ここに来てロシアアカマツ小割製品も国産材転換の動きも出てきている。

次に、日本の国産材シフトに影響を与えたのは、コロナショック後のウッドショックである。ウッドショックは、コロナウイルスの急拡大から、経済活動の自粛もあつ

たが、物流の停滞が大きかったといえる。ウッドショックで全て値上がりしたが、国産材シフトの観点からみると、次の品目に多大な影響を与えたといえる。

第一は、集成材の国産材シフトである。

阪神淡路大震災で軸組工法は地震に弱いとされ、急速に広まったWWの集成管柱から、国産管柱へのシフトである。強度的にも問題なく、輸入量の急減・価格の乱高下を防ぐ意味からの交換である。結果、国産集成材工場の設備投資が図られ、国産材利用へ大手ハウスメーカーも舵を切ったといえる。大壁工法で、管柱が目に見えないことから、丸太A材だけでなく、B材に近い丸太も利用可能となり、林業界にとっても大転換となった。

第二は、2×4工法のディメンションランバーである。ほぼ100%海外依存していたが、ウッドショックで満足に入手できないだけでなく、価格も2〜2.5倍に跳ね上がった。このリスクを避けるためには、国産材ディメンションランバーの比率を一定程度上げなければならないとの教訓を得たのである。結果、2×4住宅メーカー大手だけでなく、中小も国産材調達に注力し、製材工場の国産材投資も急転回である。

この元は何かといえは、コロナショックである。中国か？習近平国家主席の功労か？そして今、アメリカ・イランのホルムズ海峡問題である。住宅建物の塗料、断熱材、包装シートだけでなく、合板用接着剤、チェンソーオイル等林業・木材産業への影響も

懸念されている。もしかしたら、石油石炭は動植物の化石燃料だったことを考えると、木材の成分利用への代替需要が始まる契機かもしれない。

とりあえずは、脱プラのための木材利用が近道かな。プラスチック製パレット容器から、弁当箱、旗ポール、工事用三角ポール、トレー、箸に至るまでである。丸棒加工や厚径木量産工場に進むのは夢かもしれないが、断熱性からサッシ工場がプラスチックサッシから木製サッシに進出し始めた今、加速化が期待される。このことの発端はアメリカのトランプ大統領？うくん、3人目の登場？

色々国産材時代に向けての転機である功労者について述べてきたが、国産材時代に向けてまだまだ未熟な品目は次の通りである(自給率が低すぎ)。

- 1・RW、米マツに代替する梁桁の横架材
- 2・複合床板基材合板、型枠用合板
- 3・家具、オフィス家具
- 4・製紙用チップ
- 5・プラスチック日用品
- 6・木製サッシ窓、玄関ドア
- 7・貯水浄化タンク、日本酒用醸造樽、温泉用風呂桶

さらに国産材時代に前進する功労者に期待である。日本人自らが功労者になるのが本望だ！！

令和8年5月分の販売実績

樹種	合板・LVL用			製材・集成材・その他用			計		
	当月出荷量 (m ³)	前月比 (%)	前年同月比 (%)	当月出荷量 (m ³)	前月比 (%)	前年同月比 (%)	当月出荷量 (m ³)	前月比 (%)	前年同月比 (%)
スギ	13,491	90.2	109.4	14,649	100.0	104.8	28,140	95.0	107.0
カラマツ	4,541	118.9	59.8	311	29.4	420.4	4,852	99.5	63.3
アカマツ	2,540	231.5	94.6	96	*	555.6	2,636	240.2	97.5
その他	48	53.2	327.9	174	45.6	174.5	222	47.1	194.1
合計	20,620	103.3	91.1	15,230	94.7	107.5	35,850	99.4	97.5

樹種	燃料用		
	当月出荷量 (t)	前月比 (%)	前年同月比 (%)
スギ	2,376	118.4	125.4
カラマツ	4,185	120.1	120.3
アカマツ	591	89.1	51.6
その他	508	66.9	50.7
合計	7,661	110.8	101.8

樹種	今年度累計			
	合板・LVL用 (m ³)	製材・集成材・その他用 (m ³)	計 (m ³)	燃料用 (t)
スギ	28,454	30,776	59,230	4,383
カラマツ	8,361	1,429	9,790	7,713
アカマツ	3,637	96	3,733	1,370
その他	138	556	694	1,268
合計	40,591	32,856	73,447	14,734
目標達成率 (%)	16.2	15.7	16.0	12.3
計画量	250,000	209,000	459,000	120,000

注) *印は前月又は前年同月実績がなかったことを示す。

【令和8年6月の需給動向】

- 国有林請負生産事業の開始により出材量は減少傾向にあるが、受入制限もあり需給バランスは保たれている。
- 中東情勢の影響により、接着材等の原料不足が今後懸念されるが、当面は6月の稼働に支障はない見込みである。
- 6月から松くい虫被害地域における伐採が制限されるため、今後アカマツ原木の不足が予想される。

耳からウロコ

秋田弁の否定と肯定難しい

「丸太」出すべ(丸太)出すな 合意

とある業界人から「秋田の製材工場と合意したはずなのに、何か違うんだよね」と話があった。この会話は、以前も全く同じ相談があった。次のような会話である。「これでいいですか?」「んだすな(そうですね)」である。秋田では、聞かれたことに返答するときによく使われる言葉である。最大限に肯定する場合は「んだす!んだす!」である。肯定の寄りの場合は「んだすな」の一言である。一方、否定する場合は、「んつく。だすなく」となる。言葉のニュアンスであり、秋田弁を知らない人にとっては誤解を招く。

北関東・南東北だとずうずう弁で、濁点をつけ、言葉が濁りなまった方言だが、津軽に向かうと単語が異なる方言となり全く違うのである。津軽で「ジャンボ行く」と言えば、ジャンボ宝くじを買いに行くのではなく、「床屋へ行く」であり、ジャンパーがジャンボに変化したと聞いている。

秋田の方言は元々の言葉を、別の近い言葉で発音して短縮している。寒い冬にあまり口を開きたくないからかな?例えば、

「け」「く」「かね」↓「食べて」「食べる」「食べない」

「あべ」「いがね」「やんた」↓「一緒に行く」

こう「一緒に行かない」「一緒に行くのは嫌だ」

「これせつ」「ごんくたらごんくね」↓「この事をしろ」「こんな事はやらない・嫌だ」

「けろつ」「けね」↓「これください」「これあげない」

そこで、丸太供給で大変なのは次のような会話である。

「だすべ」「だすな」は「そうですね」「そうですね」で秋田弁完全同意である。強い口調で合意する場合は「だすべ!!」「だすな!!」

であり、緩やかな合意は「だすべ」「だすなく」となる。これを丸太の話では、丸太の件だけ

どお前も「出すべ」お前も「出すな」だと反対になってしまう。正しく会話するなら「お

めも丸太出すべ」「だすなく。わも丸太出すべ」↓「あなたも丸太出しましょう」「そうですね」

私も丸太出しますよ」で解決である。最初に戻ると、「んつく。だすなく」と小さい

い声で回答された場合はどうすればいいのかわかる。もう一度、「何か完全に合意しづらい

点もありますか?もう少しこうした方が良い点があったらお話しください」がベターかな??

あとは、お酒好きな県民性なのでいかにして飲み会で本音を聞き出すかが更にベターかな?でも、意見の違う者が同席していると、

秋田の業界人は本音を言わない気質もある。3次会まで行き、2人きりになってから本音を聞き出すのがベストです!本心に仲良しにならば全く大丈夫です(保証)。